

ぱびるす



聖学院大学総合図書館報

第69号(2019年秋)

特集

Roads to Librarians



YOUはどうして図書館へ？

図書館に司書として就職する道は狭き門です。その狭き門を突破して、現在、司書として活躍する卒業生2名をお招きして、図書館情報学課程と図書館の共同企画で公開イベントを開催しました。学生時代をどんなふうにご過ごしたか、現在のお仕事に就くまでのプロセス、今の仕事の具体的な内容などをうかがいました。当日は1年生をはじめ、司書という職業に興味を持っている学生さんがたくさん集まってくれました。

日時：2019年5月22日(水) 10:40-12:10

場所：1号館1 cafe (参加無料・入退場自由)

ここでは内容を抜粋・編集したダイジェスト版をお届けします。

【パネラー紹介】

★杉本 太志(すぎもと たいし)さん

・2017年3月、人文学部日本文化学科を卒業

・学生時代は学友会総務委員会、図書館サポーター「セラエノ」の立ち上げからかかわった初代メンバー、ライブラリー・アシスタント(図書館アルバイトスタッフ)、など



幅広く活動。

・在学中には図書館情報学課程、学校図書館司書教諭課程、教職課程を履修して、司書、学校図書館司書教諭、教員免許の資格を取得。卒業時の修得単位数は約200単位。

・2016年度埼玉県職員採用試験に合格。2017年4月に埼玉県庁入庁。埼玉県立岩槻商業高等学校に配属され、学校図書館司書として勤務。高校生のためになる図書館活動を目標に日々、奮闘中。

★近藤 千恵(こんどう ちえ)さん



・2018年3月、人文学部日本文化学科を卒業

・在学中は「日本文化学会学生会」に所属。先生方、先輩・後輩たちとともによく学び、よく遊び、日本文化学科の活動を盛り上げた。

・2018年4月に埼玉県川口市役所に入庁。埼玉県川口市立中央図書館に司書として勤務し、現在2年目。

・川口市立図書館のマスコット「ぶっくぶんぶん」がお気に入り。

【学内出演者紹介】

★塩崎 亮(しおざき りょう)先生

・所属：基礎総合教育部 准教授

・国立国会図書館勤務を経て、2018年から現職(図書館情報学課程担当)

★田山 恭司(たやま きょうじ)職員

・所属：学術支援部 司書課

・学生アルバイトの業務指導、PC等の機器管理、統計などを担当。

〈びゅーくんのひとくちメモ〉

「図書館情報学課程」、「学校図書館司書教諭課程」の履修の仕方など、詳しく知りたい方は学生要覧をご覧になるか、教務課(8号館1階)にお問い合わせください。

» 在学中はどのような学生生活でしたか？

杉本：私は卒論までやって、資格をとって、学友会活動もいろいろとやりました。学友会活動は4割くらいですね。ほかの人より学内の図書館活動には深く関わっていたと思いますね。

近藤：「日本文化学会学生会」に所属していました。そこで友達や先輩とすごく遊んでいました。もちろん、授業の勉強もたくさんしました。ここでの思い出が、今も支えになっています。



(聖学院大学 HP、日本文化学科のページより)

» お二人とも図書館情報学課程を履修しておられました。課程の思い出は何かございますか？

杉本：私は図書館情報学課程と学校図書館司書教諭課程、教職課程も履修していたので、(当時)頭のなかは大混乱していました。

試験では、暗記を問われる問題が多かったかと思います。実際の仕事では、これらを覚えている前提で話が進んでいきます。課程で学んでおいてよかったです。

近藤：2年生の頃に一度、司書資格取得のことも迷った時期がありました。本当に図書館で働く気があるのかなと。悩む時期もあったし、たいへんな授業もあったし、課題が多い授業もあったし、暗記が多い。辛い思い出の方が多いけど、もちろん、楽しいこともたくさんありました。最終的には司書として働けているし、良かったと思っています。

杉本：メリットを1つお話しすると「図書館情報学課程」は「情報学」と名がついているように、「情報検索」について学べるのが大きなポイントです。就活でも、司書資格＝情報検索には詳しい

だろうという評価をされます。授業で教わった有益な情報源を自分のスマホにもブックマーク登録していたら、旅行や調べものなど実生活でも役立ちました。

アカデミックな学びとして「図書館情報学課程」を学ぶことができました。課題やレポートが多く、レポートには引用や情報源が明記されているか、きちんと情報源をチェックできているかなど、先生方のチェックがすごく厳しくて。メールの送り方(送信マナーなど)も大学のときに身に着けておいて、社会に出てから良かったと思います。



» 今日は、1年生の参加者も非常に多いようですから、塩崎先生から課程の話をうかがいましょう。

塩崎：授業で言いたいことを諸先輩が言ってくれて、ありがたいですね。

暗記科目が多かったという話がありましたが、私の授業では暗記は重視しません。レポートをまとめることの方が大事だと思っています。

演習科目とか必然的に暗記する科目も多いですが、大きな流れとしては「**学び方を学んでいく力を養うこと**」に重きを置いています。

今日、(1年生が)来てくれているということは、興味を持ってくれていると思うので、来年(1年生が2年生になったら)ぜひ捕まえたいですね。

» 在学中のことを伺ってきましたが、続いては、現在の仕事の内容について教えてください。

近藤：JR 川口駅東口駅前にある川口市立中央図書館に勤務しています。移動図書館での乗務もあります。

今回は特に「点字音声情報サービス」について

紹介します。図書館サービスのなかでも触れる機会が少ないと思って選びました。通称「障害者サービス」と呼ばれます。

利用者様が希望する本が点字に訳されていないければ、ボランティアの方が1つ1つ、針で（紙を）打って点字に書き起こしていただきます。作業期間は短くても3か月。長いものでは1年もかかってしまいます。すぐに読みたい新聞記事や雑誌などは「対面朗読サービス」を行います。この朗読もボランティアの方がやっていただきます。

仕事をしていく上で一番大切に行っていることは「読書する権利の保障」です。

読めないからとお断りするのではなく、できる限り読書する権利を守りたい。読みたいという気持ちに応えたい。少なくとも私はそう思っているし、職場全体としても同じ気持ちです。

図書館で購入する本の選書もしますが、何人もの目を通して、とても慎重に行います。毎週、選書のための会議を開きます。場所も予算も限りがありますから、購入できないときは、「なぜ買えないのか」という理由も明確にします。市民の方にとって必要な情報であるかどうかを意識しながら選書しています。



（近藤さんからの当日配布物を学生が見ている様子）

杉本：勤務先は学校図書館なので、一般の方が利用することはありません。

埼玉県立高校には、少なくとも1名は学校司書がいます。高校生に必要な本、興味を持ってもらえそうな本ということを念頭におきつつ、購入する本を選んでいきます。私はまだ20代前半で、高校生と年齢は近いけれども、すでにカルチャー・ギャップを感じています。

司書教諭の先生もおられるので、協力して業務を行います。近隣の岩槻や大宮地区の学校図書館

同士で相互利用協力もしています。また、さいたま市立図書館、埼玉県立図書館からも図書館が資料を借りて、利用者に提供することもできます。

私の勤務先は商業高校で、生徒の進路は就職が多いので就活や資格関連本のコーナーを作っています。資格関連本は学内だけでなく、一般的に取得できる資格も対象にしています。

図書館に興味のない生徒はまず図書館に来ません。図書館にこない生徒にも図書館を知ってもらうためにゲームイベントをしたり、就活の面接練習の時期には、図書館を待ち時間の居場所にしてはどうかとアピールしたりしています。

限られた場所、限られた中で、サービスを展開しないといけません。

➤ 続いて就職活動についてうかがいましょう。
まずは、塩崎先生からどんな就職先（図書館の種類）があるのかお話しください。

塩崎先生：公共図書館、学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館などがあります。

「図書館情報学概論」を受講した学生にアンケートを取ったところ、興味関心が高いのは、公共図書館がダントツ1位。次が学校図書館でしたね。

私が働いていたのは国立国会図書館ですが、専門図書館というのもあります。公共図書館や学校図書館、大学図書館などに当てはまらない企業図書館は専門図書館に分類されます。

就職先の王道は、公共図書館ですね。



➤ 先輩方はどうでしたか？

杉本：司書はとにかく門戸が狭いのが現状です。情報収集がまず大切。司書募集の情報は、キャリアサポートセンターには少ないため、自分でイン

ターネットと図書館で情報を集めるしかなかったです。

試験関連は、キャリアサポートセンターにも情報があります。雑誌の「公務員試験受験ジャーナル」をとにかく愛読していました。



私独自の活動では業界を知るために、毎年11月頃に横浜みなとみらいで開催している「図書館総合展」に行きました。これは図書館や出版業界、図書館関連企業などが集まる大規模な展示会で、一般の方や学生でも参加できます。図書館関連で就職をめざす学生のためのツアーがあったので、参加しました。図書館業界は狭いようで広いと感じましたね。アウトソーシング業界や図書館に関連する企業がたくさんあることが分かりました。

就活では、図書館総合展で見かけた企業にも応募しました。考え方ひとつ、関わり方ひとつで(図書館業界の)視野が広がると感じましたね。

司書採用の話では、とにかく公務員採用試験の勉強はしました。図書館で過去問題集を借りたこともあります。一般常識だけではなく、司書の専門試験もありました。司書専門試験の過去問題集もあります。

本気で司書を目指すなら、今がチャンスです。埼玉県に限って言えば、採用数の多さは全国でもトップクラス。ここ5年くらいは10名以上の採用があります。理由は団塊世代職員の大量定年退職で、あと何年かはこの状態は続くと思います。

聖学院大学は埼玉県にある大学なので、埼玉県の図書館活動に関わることができる機会が多くあります。私はこの大学図書館でアルバイトとして働き、また、「図書館と県民のつどい埼玉」にも学生ボランティアとして参加しました。とにかく、いろいろなことを経験して、就活の面接でも

それらの経験を全部並べてアピールしました。それが採用につながったと思っています。

近藤:就活については、ほぼ杉本さんに同じです。川口市職員の募集は若干名です。私のときは、応募者数は17名くらいで、採用されたのは私を含めて4名でした。募集がない年度もあります。

募集がかかるときは必ずあります！チャンスが巡ってきたときにつかめるように、今は資格取得に励んでください。本気で司書を目指している方は、市町村や県のホームページを見てください。そこから職員募集の情報が掴めます。

➤ 職員の田山さんにもうかがいましょう。

田山:大学卒業後、すぐに図書館に就職できたというわけではありません。千葉の中学校図書館で電子化のボランティア(無給)を経験し、その後、有給にはなりましたが、ほぼ2年間はいわゆるフリーターでした。次に聖学院大学図書館にご縁があって採用されました。

私から言いたいことは、図書館(業界)と何かのつながりを持ち、あきらめず、腐らず、かじりついていれば何とかなる！ということです。



➤ パネラーのみなさん、本日はたいへん貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

発行・編集 聖学院大学総合図書館
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
電話 048-725-5461 FAX 048-780-1096
E-mail: lib@seigakuin-univ.ac.jp
URL: <http://lib.seigakuin-univ.ac.jp/>